

埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
 TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
 携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

令和2年 賀詞交歓会・ 各賞受賞記念祝賀会盛大に開催される

令和2年1月10日(金)「ラフレさいたま 櫻ホール」において、公益社団法人埼玉県臨床検査技師会令和2年賀詞交歓会ならびに各賞受賞記念祝賀会が開催されました。今年は、来賓、会員、賛助会員合わせて223名の方々にご参加いただき盛大に開催することができました。会は、矢作副会長の開会の挨拶にて始まり、つづいて神山会長から新年の挨拶、そして来賓の挨拶を埼臨技名誉会員の野本幸雄様より、埼臨技賛助会員を代表してオーソ・クリニカル・ダイアグノスティックス株式会社の鎌倉重雄様よりいただきました。引き続き来賓の方々の紹介が行われ、日本臨床検査技師連盟埼玉県支部代表の並木薫様のご発声で乾杯となり、楽しく、賑やかな歓談のひとつを過ごしました。祝賀会の中では各賞受賞者の方々の紹介が行われました。ここで改めて受賞者の方々をご紹介します。受賞者の皆様、おめでとうございます。

●瑞宝双光章

●埼玉県公衆衛生事業功労者表彰

| | |
|---------|--------------------|
| 砂川 進 氏 | 元埼臨技会長 |
| 吉原 靖之 氏 | 越谷市立病院 |
| 星 孝夫 氏 | 獨協医科大学埼玉医療センター |
| 河野 哲也 氏 | 自治医科大学附属さいたま医療センター |
| 金守 彰 氏 | 埼玉県済生会川口総合病院 |
| 山口 純也 氏 | 埼玉県済生会川口総合病院 |
| 津田聡一郎 氏 | 前埼臨技会長 |
| 鈴木 英之 氏 | 第46回埼玉県医学検査学会 学会長 |
| 戸田 成美 氏 | 埼玉医科大学総合医療センター |

●埼臨技特別功労者表彰

●埼臨技功労賞

●埼臨技特別賞



受賞者への花束贈呈があり来賓祝辞を埼臨技名誉会員原繁一様よりいただき、各受賞者の方々から謝辞をいただきました。今回も多くの方々を受賞され、来賓の方々を交えての記念撮影も華やかなものとなりました。楽しく賑やかな会も終焉に近づき、昨年12月1日に開催された第47回埼玉県医学検査学会学会長でありました来住野修様より学会盛会の御礼と、本年12月に開催される第48回埼玉県医学検査学会学会長武関雄二様より開催の案内と協力要請が行われました。最後は岡田副会長の閉会の挨拶で今年の会もお開きとなりました。ご出席いただきました皆様ありがとうございました。オリンピック開催年(子年)でありますこの一年が、皆様にとりまして良い年となりますようご祈念申し上げます。

(文責：濱田昇一)



第48回 埼玉県医学検査学会のお知らせ

開催日：令和2年12月6日(日)

会 場：大宮ソニックシティ

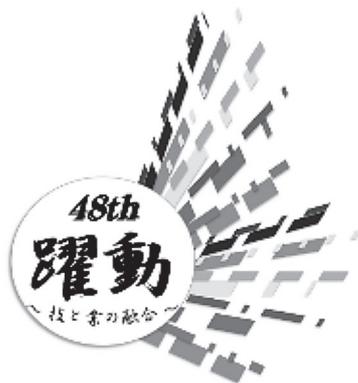
テーマ：躍動 ～『技』と『業』の融合～

第48回埼玉県医学検査学会
実行委員長 小野口 晃

第48回埼玉県医学検査学会は令和2年12月6日(日)に開催されます。今学会の実行委員長を務めさせていただきます、自治医科大学附属さいたま医療センターの小野口晃と申します。

武関学会長のもと記憶と記録に残る学会を目指すため実行委員18名、学会担当理事が強靱なスクラムと巧みな技を繰り出してONE TEAMの精神で進んでまいります。学会の企画は、若手会員の皆さまにもベテラン会員の皆さまにもお楽しみいただけるように、メインテーマの「躍動」に沿った内容で考えております。詳細につきましては、学会HPに順次掲載してお知らせいたします。

学会当日はぜひ会場に足をお運びいただき、楽しみながら学んでいただければ幸いです。皆様のご参加を心よりお待ちしております。



第48回埼玉県医学検査学会ロゴ



各研究班の研修会報告を致します。

テーマ 嗅覚・味覚障害についての知識と理解を深めよう！ ～ 検査から診断・治療まで～

主催 生理検査研究班

実施日時：令和元年10月11日 19時00分～20時30分

会 場：大宮ソニックシティ 906号室 点数：専門教科ー20点

講 師：大木 幹文（北里大学メディカルセンター 耳鼻咽喉科部長）

参加人数：会員16名

出席した研究班班員：高梨淳子 仲野浩 田名見里恵 武藤由里子

研修内容・感想など

今回は、「嗅覚・味覚障害についての知識と理解を深めよう！～検査から診断・治療まで～」というタイトルで大木幹文氏にご講演をしていただいた。

まずは味覚検査の基礎知識である神経支配領域や味覚障害の概要と原因など、検査の方法の種類とその特徴、評価方法、味覚障害の治療方法などのお話があった。電気味覚検査は顔面神経障害の部位診断、濾紙ディスクによる味覚検査では味覚障害の程度の判断に有用である。全国的に濾紙ディスク法で検査を行っている施設が多いが、検査目的によって検査法を選択する必要があると感じた。また、味覚障害の治療として薬剤を使用する他に食品から亜鉛を摂取する方法もある。近年、亜鉛不足を指摘する報告もあるが、亜鉛の多い食材を摂取することにより改善が見込まれる。但し、食品添加物は亜鉛の吸収を妨げる働きがあるとお話しされており、調理がしやすい加工食品やレトルト食品の多用も亜鉛不足が増えている原因ではないかと思う。

次に嗅覚検査の基礎知識である嗅覚障害の原因と鼻腔の解剖や通気性障害、嗅覚の伝導路、嗅覚障害の原因、嗅覚障害の診断方法、検査方法、嗅覚障害の治療法などのお話があった。診療報酬点数が請求できる嗅覚検査は基準嗅覚検査と静脈性嗅覚検査のみである。基準嗅覚検査は検査に用いる基準臭の管理が困難であるためあまり普及していない。診察時に簡易的に行えるにおいスティックによる嗅覚識別検査が多く実施されているという。今回の研修会で実際においスティックによるにおい識別検査を参加者各々に体験していただいた。においの感じ方には個体差があり、10種類以上あるスティックの全てのおいを正解するのは難しいようだ。

2015年4月に臨床検査技師等に関する法律施行令の改正により、臨床検査技師が嗅覚検査と味覚検査を行えるようになった。まだ検査を導入している施設は少ないが、どの様な検査であるか知識として知っておくことは必要だと思う。

(文責：高梨淳子)

テーマ 感染症検査の最新トピックス2019 ～ 菌力アップトレーニングを含めて～

主催 微生物検査研究班

実施日時：令和元年11月29日 19時00分～20時30分

会 場：大宮ソニックシティ 603号室 点数：専門教科ー20点

講 師：大楠 清文（東京医科大学 微生物学分野 教授）

参加人数：会員85名 賛助会員7名

出席した研究班班員：渡辺典之 牧俊一 酒井利育 小棚雅寛 今井芙美 千葉明日香
永野栄子

研修内容・感想など

今回は「感染症検査の最新トピックス2019 菌力アップトレーニングを含めて」というテーマで大楠清文氏に講演していただいた。

ASM学会では、MALDI Biotyper「sirius」が発売されるとの最新情報があった。今までは菌体のタンパク質をイオン化し、検出するのは陽イオンだったが、陰イオンも測定できるようになるため、LPS、グラム陰性菌の細胞壁を検出することができる。今まで、区別することができなかった大腸菌と赤痢菌が測定可能となる。結核菌と*Mycobacterium bovis*の区別やLPS構造の変化によるコリスチン耐性株も判定可能となり、質量分析装置も進化していくとのことだった。また、海外ではAIで培地を取り込み、パソコンからデジタル画像を見ながら菌種同定や薬剤感受性検査を行うことや、人間の代わりにロボットが行うための開発も進んでいるという。ASM学会は大楠氏にツアーを組んでいただけるので参加しやすい。学会以外にも現地の病院見学や観光もあり、次回は2021年のアナハイムで開催される。国際学会参加は二の足を踏んでしまいがちだが、大楠氏と一緒になのでとても心強いと思う。

CLSIの国際委員である大楠氏は2020年1月にCLSI ASTミーティングに参加され、その内容については2020年1月31日から開催される日本臨床微生物学会総会・学術集会で報告されるそうだ。薬剤感受性結果報告について、すべての薬剤を報告するのではなく、Table1のGroupAの薬剤のみを報告し、GroupBはGroupAの薬剤が耐性の時に報告する考えが欧米であり、GroupA、B、Cの定義を明確にすることが承認されるようだ。この報告方法にするには、臨床側との十分な話し合いや理解が必要となる。また腸内細菌科細菌 (*Enterobacteriaceae*) が腸内細菌目細菌 (*Enterobacterales*) になるため、今後の学会発表や論文作成には注意しなければならない。

EUCASTでは、薬剤感受性結果で「I」を使用しない。Iは薬の量を増やせば感性になるのでCLSIのSDDと同じ概念で、感受性結果はSとRになる。判定できない菌種と薬剤では、不確かな領域、ATUとして結果を報告することとなった。また、薬剤感受性結果を早く返してほしいというニーズが高いため、血液培養ボトルから直接実施するディスク法の4時間法、6時間法、8時間法の判定基準が作成された。欧米の微生物検査室は24時間検査を行っているため、この方法が行えるとのことだった。EUCASTのバージョン9は無料でダウンロードできるとのことだ。

菌力アップトレーニングでは、呼吸器系関連細菌について説明していただいた。肺炎球菌について、血清型12F、24F、35B、15Aが増えているが、典型的なコロニー形態を示さないので従来法のオプトヒン感受性試験と胆汁溶解試験を行うことは基本である。また、*Haemophilus* 属菌の同定には日常検査として実施しているX、V因子要求試験や溶血性、糖分解試験を行うことで同定精度が向上するとお話していただいた。質量分析で簡単に菌名同定ができるようになって、患者背景と検体からのグラム染色像を確認し、従来からの同定検査を行うことはとても重要であると感じた。

(文責：永野栄子)

テーマ **初心者・初級者形態セミナー**
～ デジタル機器を用いて基礎から症例標本まで ～

主催 血液検査研究班

実施日時：令和元年12月22日 9時30分～16時00分

会 場：埼玉県立大学 南棟171血液学実習室、南334中講義室 点数：専門教科－20点

講 師：林 文明（シスメックス株式会社 学術サポート課）

血液研修班員

参加人数：会員35名、学生6名

出席した研究班班員：原誠則 星孝夫 網野育雄 軍司雅代 蔵光寛行 渋川絵美 中山智史
星聖子 石井千晴

研修内容の概要・感想など（2名参加者の方から；匿名希望）

参加者A

今回血液形態セミナーに参加し、1日かけて血液像をしっかりと勉強でき、充実した日となりました。講義では、造血の基本的なことの振り返りから、標本の見方を教えていただきました。核のクロマチンの観察が普段から難しいと感じていて苦手でしたが、クロマチンとは何かを知り、クロマチンが繊細や粗剛に見える理屈がわかるようになって観察がしやすくなりました。鏡検では、日常検査でなかなか出会わないけれど、きちんと押さえておくべき症例を学ぶことができました。異常な細胞に遭遇した時に疾患に気付くことが出来るよう、今回のセミナーで学んだことを今後に活かしていきたいと思います。

参加者B

師走の日曜日、どんよりとした肌寒い空模様の下、埼玉県立大学にて行われた血液形態セミナーに参加してきました。午前中は、初心者にも理解しやすいようわかりやすい症例の提示があり、基礎的なお話がありました。今までモヤッとわかったつもりでいたことに、パッと明るい光が射したような気がしました。午後からの鏡検実習は、タブレットで目的とする細胞を確認しながら様々な症例の標本を見ることができました。基礎から実践まで本当に実り多いものでした。



**令和元年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第10回 理事会議事録**

日 時：令和2年1月9日(木) 19時00分より

場 所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家7-14-7

議 題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項
Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出 席：(理事) 神山 岡田 松岡 矢作 小山
濱本 奈良 長岡 小島 神嶋
菊池 長澤 濱田 伊藤 笹野
石井 神戸 山口 猪浦 鳥山
阿部

(監事) 遠藤

欠 席：(理事) 久保田

(監事) 細谷

本日の理事会の出席者は22名であった。理事の出席者は21名で、現在数22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、神山清志会長が務めることとなった。

Ⅰ. 行動報告 (令和元年12月12日～令和2年1月8日)

12月12日(木) 令和元年度第9回理事会：

神山、岡田、矢作、松岡、小山、
奈良、小島、神嶋、菊池、長澤、
濱田、伊藤、笹野、神戸、猪浦、
久保田、阿部、遠藤、細谷

12月13日(金) 日臨技予算委員会：神山

12月26日(木) 埼臨技だより488号編集会議

(メール会議)：奈良、長岡、小島、
神嶋、菊池

12月27日(金) 賀詞交歓会事前準備：長澤、伊藤

12月30日(月) 埼臨技事務所巡回：小山

1月3日(金) 埼臨技事務所巡回：小山

Ⅱ. 報告事項

1 事務局

1) 日臨技より令和2年度全国「検査と健康展」中央会場担当の依頼が届いた。

2) 第11回埼玉輸血フォーラムの後援依頼が届き、承諾した。

日時：令和2年2月22日(土)

13:30～17:00

会場：大宮ソニックシティ 小ホール

3) 埼玉県医師会より第5回医師会新年会の案内が届いた。岡田副会長、松岡副会長、濱本事務局次長、山口学術部長を派遣することとした。

日時：令和2年2月1日(土) 18:00～

会場：パレスホテル大宮

4Fローズルーム

4) 第69回日本医学検査学会より座長推薦の依頼があり、回答した。

5) 日臨技関甲信支部より2019年度関甲信支部・首都圏支部人材育成研修会の案内が届いた。

6) 日臨技より令和2年度ベッドサイド研修会の中止についてお知らせが届いた。

7) 日臨技より「会員施設実態調査」並びに「会員意識調査」実施への協力について依頼があった。

8) 埼玉県診療放射線技師会より乳腺セミナー開催のお知らせが届いた。

日時：令和2年2月16日(日) 12:30～

会場：さいたま赤十字病院

2F多目的ホール

9) 12月30日(月)、1月3日(金)に事務所巡回を行った。

2 総務部

1) 12月26日(木) 埼臨技だより 第488号編集会議(メール会議)を行った。

2) 「埼臨技だより」第488号1月15日発行予定

3 事業部

特になし

4 学術部

1) 第69回日本臨床検査医学会座長に下記6名を推薦した。

一般：山浦 久

(さいたま市立病院)

微生物：渡辺 典之

(埼玉医科大学国際医療センター)

生理：瀧沢 義教

(獨協医科大学 埼玉医療センター)

臨床化学：大地 康文

(さいたま市立病院)

チーム医療：山口 純也

(埼玉県済生会川口総合病院)

その他：矢作 強志

(川口市立医療センター)

- 2) 令和2年4月に理事・研究班合同会議を計画している。
- 5 精度保証部
特になし
- 6 会計部
1) 令和元年度正会員費4名20,000円、入会金4名分4,000円 合計24,000円の入金があった。
2) 日臨技より生涯教育推進研修会助成金46,000円×1、47,500円×1、50,000円×1の合計143,500円の入金があった。
3) 株式会社石井印刷に埼臨技だより第487号印刷代174,471円を支払った。
4) 12月9日、令和元年度予算委員会が開催された。
- 7 精度管理委員会
特になし
- 8 一都八県会長会議
特になし
- 9 日臨技関甲信支部
特になし
- 10 日臨技
特になし
- 11 第47回埼玉県医学検査学会
1) 第47回学会より、事務所の鍵、学会長印の返却があった。
- 12 第48回埼玉県医学検査学会
1) 第48回学会より、事務所の鍵、学会長印の借用申請があった。

Ⅲ. 承認事項

1 事務局

- 1) 会員動向(令和元年度分)

令和2年1月1日現在
会員数 3,171名[平成30年度会員数3,027名]
(新入会員 293名)
賛助会員 81社[平成30年度 82社]
承認された。

2 総務部

特になし

3 事業部

特になし

4 学術部

- 1) 第47回埼玉県医学検査学会 優秀発表賞、
学会長特別賞、埼臨技奨励賞 候補者について
承認された。

5 精度保証部

特になし

6 会計部

特になし

7 精度管理委員会

特になし

8 第47回埼玉県医学検査学会

特になし

9 第48回埼玉県医学検査学会

特になし

Ⅳ. 議題

1 事務局

- 1 令和元年度臨時会員総会議案書について
小山事務局長から上記の件について、発言があり、審議の結果、承認された。
- 2 令和2年度の研究班、委員会が開催する研修会の会場整理費無料化について
小山事務局長から上記の件について、発言があり、審議の結果、承認された。

2 総務部

- 1 令和2年度会員名簿発行について
奈良部長から上記の件について、紙媒体による名簿発行の必要性について発言があった。本件に関し、詳細については総務部内で協議して、製本形式にとられないような簡便なものを検討することを前提として承認された。

3 事業部

特になし

4 学術部

特になし

5 精度保証部

特になし

6 会計部

特になし

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。



令和2年度技師会会費納入のお願い

令和2年度技師会会費納入の時期となりました。会費は前納制となっており、令和2年2月27日(木)に登録済み口座より振替となりますので、ご準備をお願いいたします。

また、不明な点につきましては、埼臨技事務所までご連絡をお願いいたします。

ご理解、ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

会費の内訳については下記のとおりとなります。

会費内訳

| | | | |
|---------|-------------|-----|---------|
| 一般社団法人 | 日本臨床衛生検査技師会 | 会 費 | 10,000円 |
| 公益社団法人 | 埼玉県臨床検査技師会 | 会 費 | 5,000円 |
| 継 続 会 員 | 合 計 | | 15,000円 |

あ と が き

2月3日は、節分でした。節分は季節を分けるという意味もあるそうで、そんな季節の変わり目に、邪気を払って一年を元気に過ごしたいとの思いを込めて、無病息災を願う豆まきが行われます。最近では、豆まき以外に恵方巻きを食べることが定番となっています。

2月は立春、暦の上では春がやってきますが、別名 如月(きさらぎ)と呼ばれ、語源として「寒くて更に衣を着る：衣更着(きぬさらぎ)」から来たと言われており、まだまだ、こたつやストーブなどの暖房器具が欠かせませんね。

今年もインフルエンザが猛威を振るっています。健康管理には十分お気をつけください。

(奈良 記)

